

## 5. 最後に

本クイズ作成には多くの資料を参照しました。また、写真掲載には斎藤英二、石塚吉浩、駒澤正夫、奥山康子、図掲載には高田 亮、防災科学技術研究所の鶴川元雄、藤田英輔の各氏のご協力を得ました。末尾に記して深謝の意を表します。

### 引用文献

石塚吉浩・高田 亮・中野 俊・河村幸男・谷田部信郎(2003):富士山はどんな活動をしてきたか? -富士山の活動史-, 地質ニュース, no.590, 17-22.

須藤 茂(2003):世界遺産ではない富士山とそのまわりの博物館など, 地質ニュース, no.591, 31-40.

SUTO Shigeru, BANNO Yasuyuki, KAWAMURA Yukio, KANEKO Naotomo and YATABE Nobuo (2003): Quizzes about the Fuji volcano.

<受付: 2003年9月1日>

## 噴気騒動

火山やそのすぐそばで湯気や噴気が出ることは、一般には当たり前の話で、ニュースにも何にもなりません。

写真1は、トルコ中部にあるアジ・ギョルという、マールの中で煙が出ている様子です。マール全体の形がよくわかる写真は撮影できませんでしたが、写真2で少しわかっていただけたと思います。まわりも平地、マールの中も平らです。1990年に撮影したもので、この火山の噴火の年代はわかりません。ドーナツ状の高まりを構成しているのは、爆発的噴火により横に吹き飛ばされた火砕物です。

このマールの中には泥炭状の堆積物が分布しています。どうやらそれがくすぶっているようです。つまりここは火山ではあるけれども、煙の原因は火山活動とは関係なさそうです。長さ約10cmの温度計のセンサーを地中に差し込んでみました。あっという間に300℃まで上がってしまいましたので、あわてて引き抜きました。

写真でおわかりのように、ここには植物が茂っています。足元に、亀を発見しました(写真3)。何と驚くべきことに生きています。こはいかに、



写真1 マールの中の地面から煙が出ている様子。



写真2 アジ・ギョルの内部。遠方の山の手前に見える低い丘が、火砕物でできたドーナツ状の高まりの一部です。



写真3 シャク熱地獄の中にいた亀。もしもし、と声をかけたところ、首を引っ込めました。

ほんの短時間立ち寄りだけですので、時間的關係も含め、現象の全体像を理解することはできませんでした。

最近、富士山の中腹で、湯気、噴気が出ていることが新たに報告され、テレビや新聞でも報道されました。こちらも全体像はまだ明らかになってはいないようです。火山体や火山のすぐそばに湯気や噴気が出たからと言って、すぐにマグマの活動と結びつけることはできないでしょう。しかしながら、逆に、火山活動と関係ないと言いきることもできません。ここは、地熱の専門家などにじっくりと調べてもらう必要があると思います。(産総研 須藤 茂)